４　世論調査

（１）調査の目的

荒川区政の各分野における区民の意向・要望などを把握し、今後の施策に反映させるための参考資料としています。

（詳細は、冊子「第 44 回荒川区政世論調査」参照）

（２）調査の概要

調査の地域	荒川区全域
調査対象	荒川区に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人
調査対象の抽出法	住民基本台帳に基づく層化２段階無作為抽出
調査方法	郵送配布、郵送または電子申請による回収
調査期間	令和元年８月 29 日～９月 30 日
回収数（率）	1,413 件（47.1％）

（３）調査項目

1　居住と生活環境
2　地域とのつながり・暮らし
3　運動・スポーツ活動
4　読書習慣・図書館の利用
5　資源とごみ
6　防災対策
7　人権（多様性を認め合う社会）
8　児童虐待
9　広報活動
10　区政への関心と要望

（４）調査結果の概要（抜粋）

・図中の「n」は、その設問の回答者数を表しています。
・小数点第２位を四捨五入したため、回答率を合計しても 100％にならないものもあります。
・回答の比率（％）は、その設問の回答者数を基数としたため、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100％を超えることがあります。
・ライフステージは、以下の定義に従って区分しています。

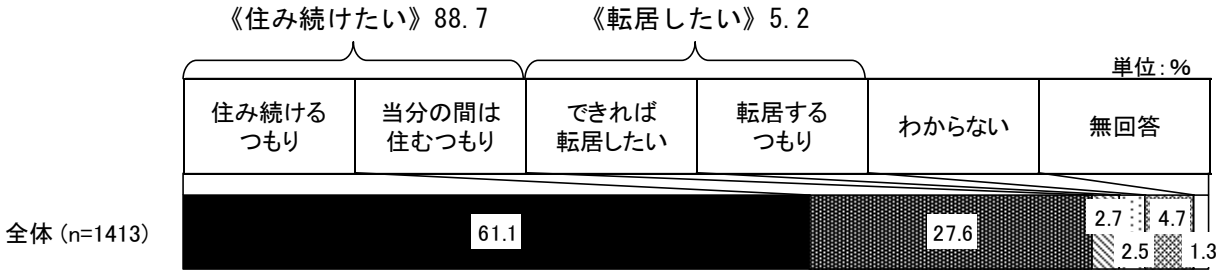
家族形成期	「39 歳以下で同居している子どものいない夫婦」または「同居している一番上の子どもが小学校入学前」
家族成長前期	「同居している一番上の子どもが小・中学生」
家族成長後期	「同居している一番上の子どもが高校・大学生」
家族成熟期	「64 歳以下で同居している一番上の子どもが学校卒業」
高齢期	「65 歳以上で同居している一番上の子どもが学校卒業」または「65 歳以上で同居している子どもはいない」
高齢期(一人暮らし)	「65 歳以上で一人暮らし」
一人暮らし	「64 歳以下で一人暮らし」

（５）調査結果

１．居住と生活環境　【継続調査項目】

設問：これからも荒川区にお住まいになりますか。（回答は１つ）

「住み続けるつもり」（61.1％）と「当分の間は住むつもり」（27.6％）を合わせた《住み続けたい》（88.7％）の割合が９割近く、高い割合を示している。

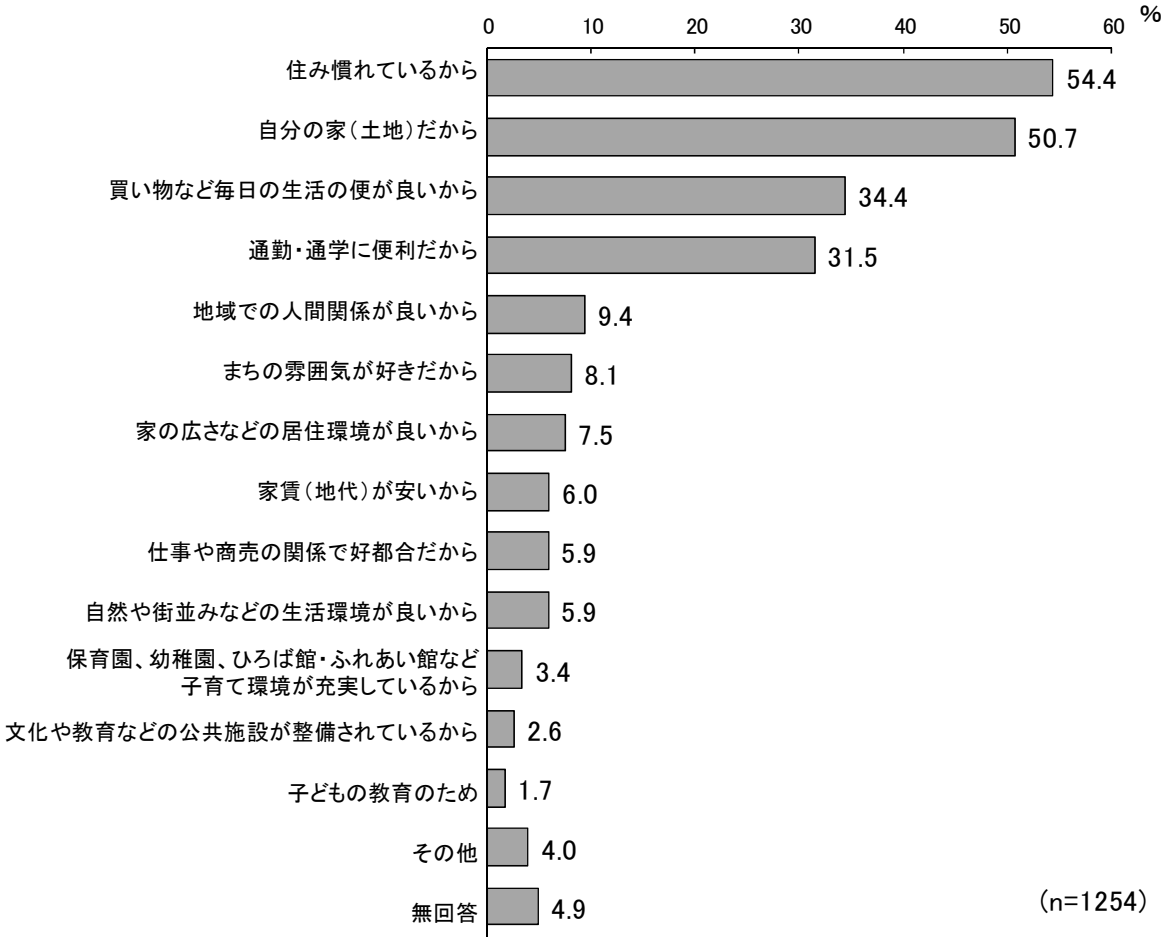


※昨年度

住み続けるつもり	60.8	87.7
当分の間は住むつもり	26.9	
できれば転居したい	3.1	5.7
転居するつもり	2.6	

設問：《住み続けたいとお答えの方に》その主な理由は何ですか。（回答は３つまで）

「住み慣れているから」（54.4%）が５割半ば近くと最も高く、次いで「自分の家（土地）だから」（50.7%）、「買い物など毎日の生活の便が良いから」（34.4%）が比較的高くなっている。



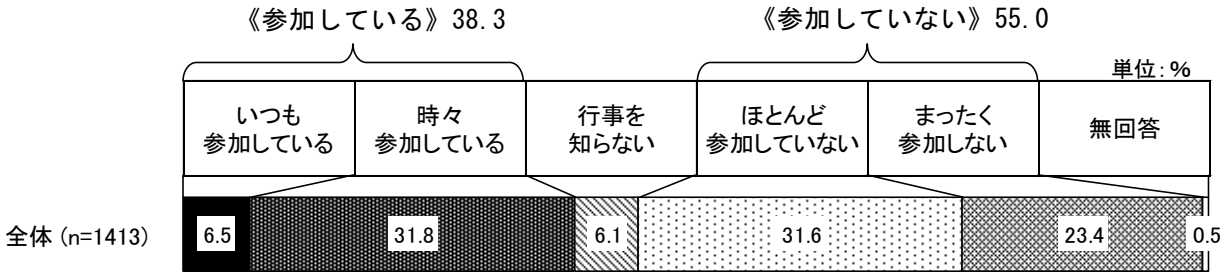
※昨年度（上位５項目）

住み慣れているから	53.1
自分の家（土地）だから	49.1
通勤・通学に便利だから	33.2
買い物など毎日の生活の便が良いから	33.2
地域での人間関係が良いから	10.7

２．地域とのつながり・暮らし　【各部依頼調査項目】

設問：地域の行事や活動に参加していますか。（回答は１つ）

「いつも参加している」（6.5%）と「時々参加している」（31.8%）を合わせた《参加している》（38.3%）は４割近くとなっている。一方、「ほとんど参加していない」（31.6%）と「まったく参加しない」（23.4%）を合わせた《参加していない》（55.0%）は５割半ばとなっており、《参加している》が《参加していない》より 16.7 ポイント低くなっている。



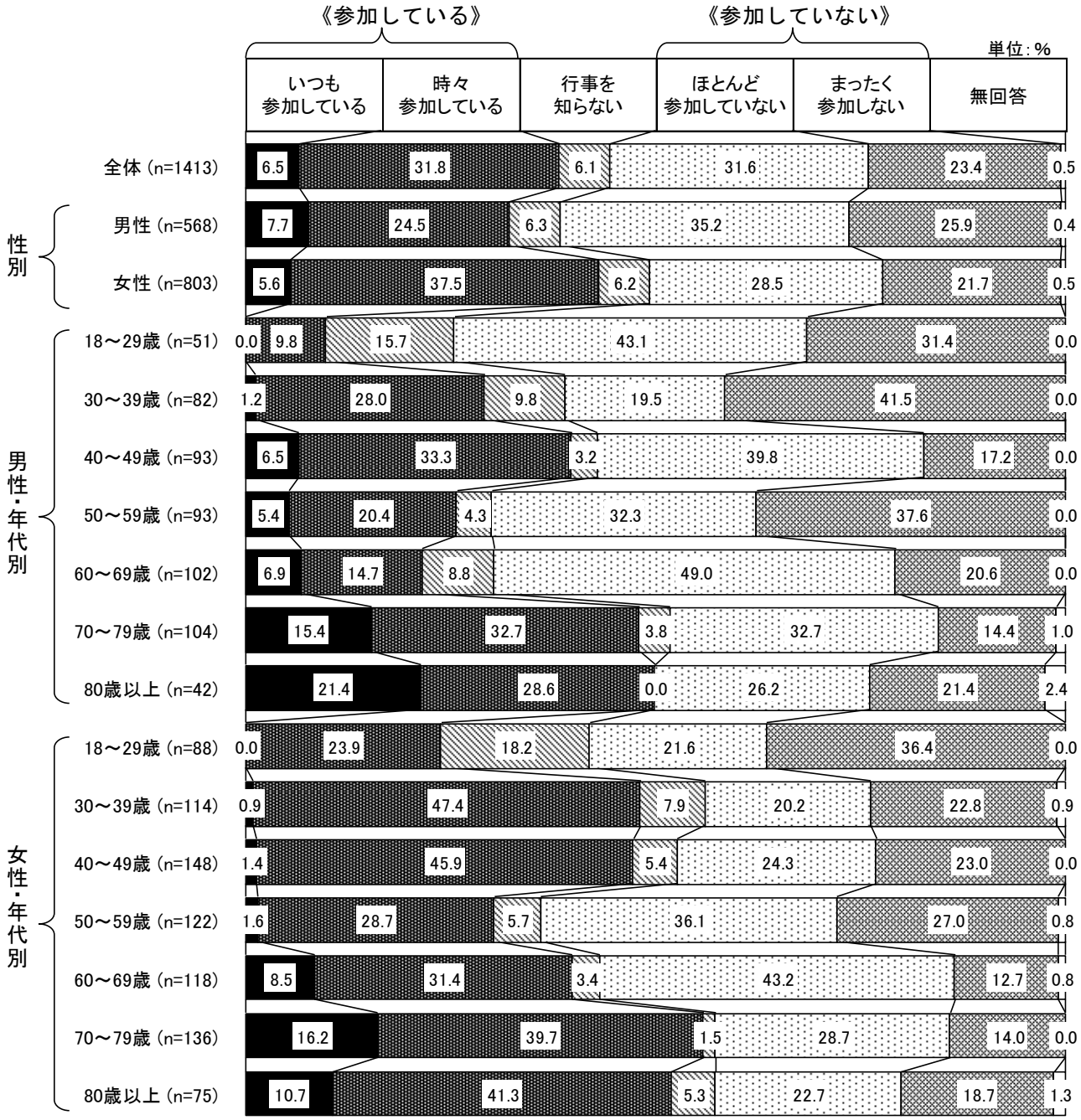
※昨年度

いつも参加している	4.8	34.6
時々参加している	29.8	
ほとんど参加していない	32.3	56.9
まったく参加しない	24.6	

性別でみると、「いつも参加している」と「時々参加している」を合わせた《参加している》は、女性（43.1%）が男性（32.2%）より 10.9 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、《参加している》では、男女ともに 18～29 歳で最も低く、特に男性 18～29 歳（9.8%）が１割を下回っている。また、「行事を知らない」では女性 18～29 歳（18.2%）が２割近く、男性 18～29 歳（15.7%）が１割半ばと高くなっている。

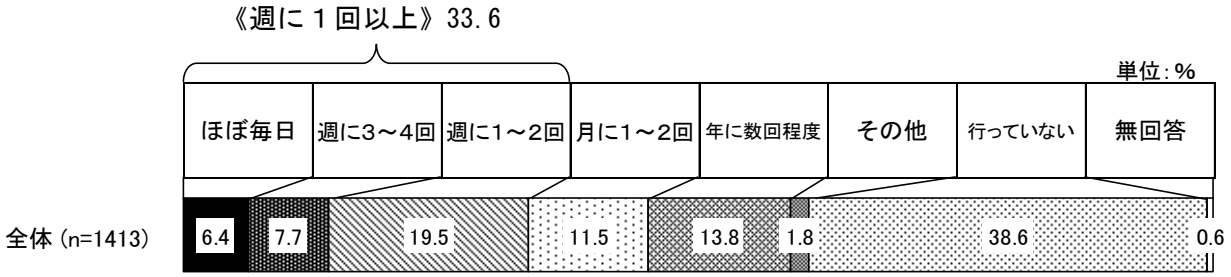
地域活動・行事　性別／性・年代別



３．運動・スポーツ活動　【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、日ごろ、運動やスポーツ活動をどのくらい行っていますか。（回答は１つ）

「ほぼ毎日」（6.4%）と「週に３～４回」（7.7%）と「週に１～２回」（19.5%）を合わせた《週に１回以上》（33.6%）が３割半ば近くとなっている。一方、「行っていない」（38.6%）は４割近くであった。

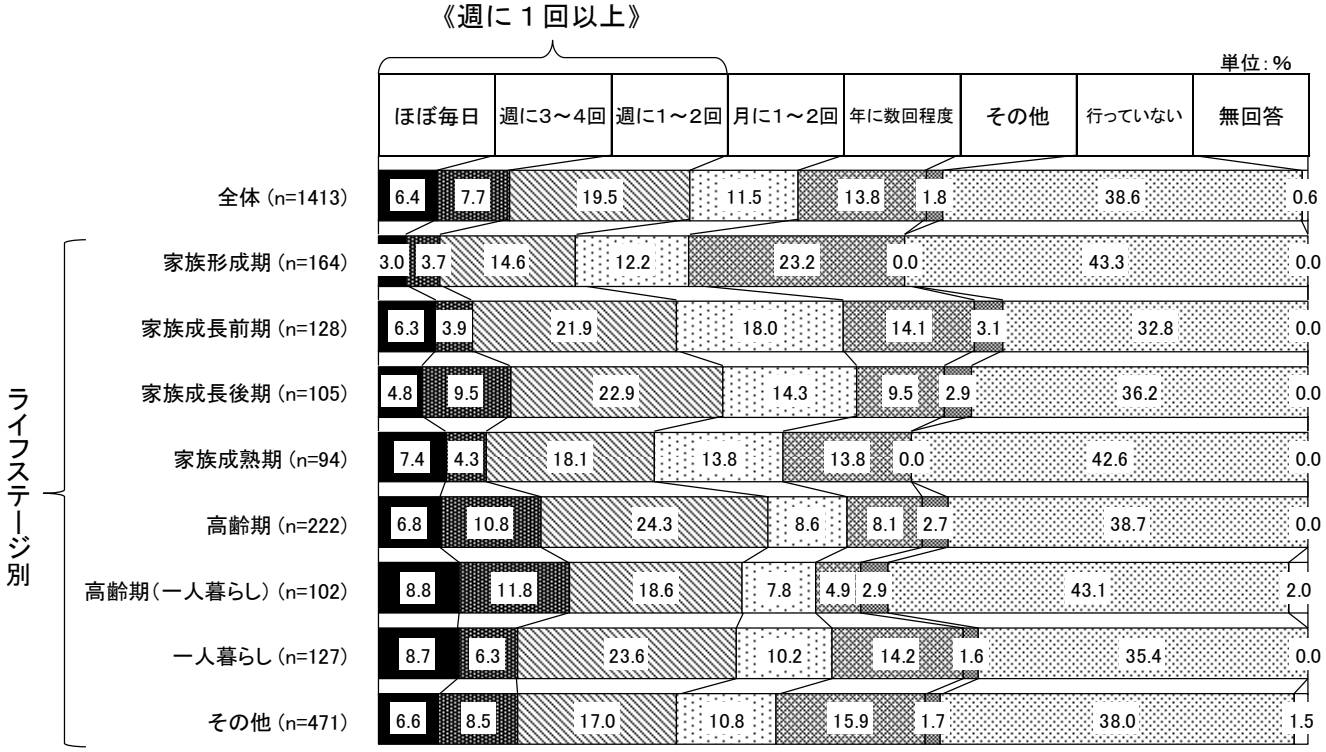


※昨年度

ほぼ毎日	5.5	34.7
週に 3～4 回	8.4	
週に 1～2 回	20.8	
行っていない	34.6	34.6

ライフステージ別では、《週に１回以上》の割合は、高齢期が最も高く 41.9%となっている。家族形成期では「行っていない」が 43.3%と４割半ば近くとなっている。

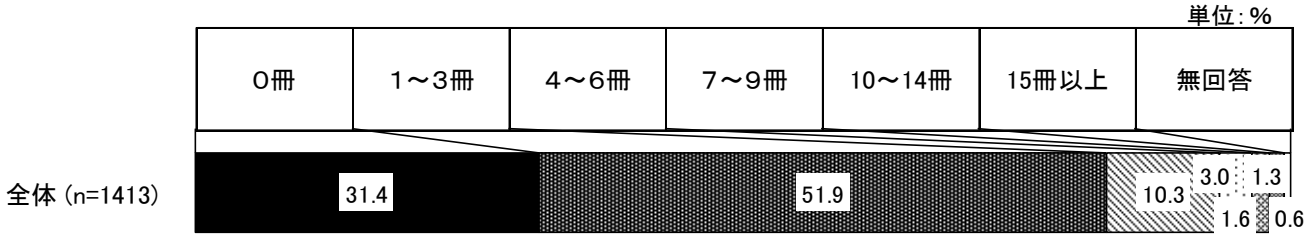
運動・スポーツ活動の頻度　ライフステージ別



４．読書習慣・図書館の利用　【各部依頼調査項目】

設問：あなたは、本・雑誌（漫画は含まない）を１か月平均何冊くらい読みますか。（回答は１つ）

「１～３冊」（51.9%）が５割強で最も高く、次いで、「０冊」（31.4%）、「４～６冊」（10.3%）の順となっている。

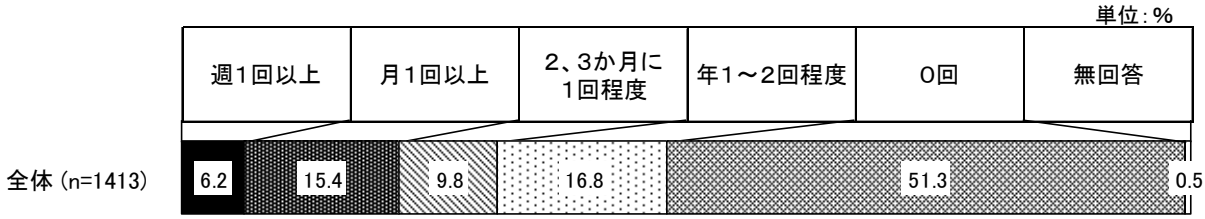


※平成 27 年度調査

０冊	16.0
１～３冊	56.2
４～６冊	11.4
７～９冊	0.9
10～14 冊	4.1
15 冊以上	1.7

設問：過去１年以内で、あなたが区立図書館を利用した頻度はどのくらいですか。（回答は１つ）

「０回」（51.3%）が５割強で最も高く、次いで「年１～２回程度」（16.8%）、「月１回以上」（15.4%）と続いている。

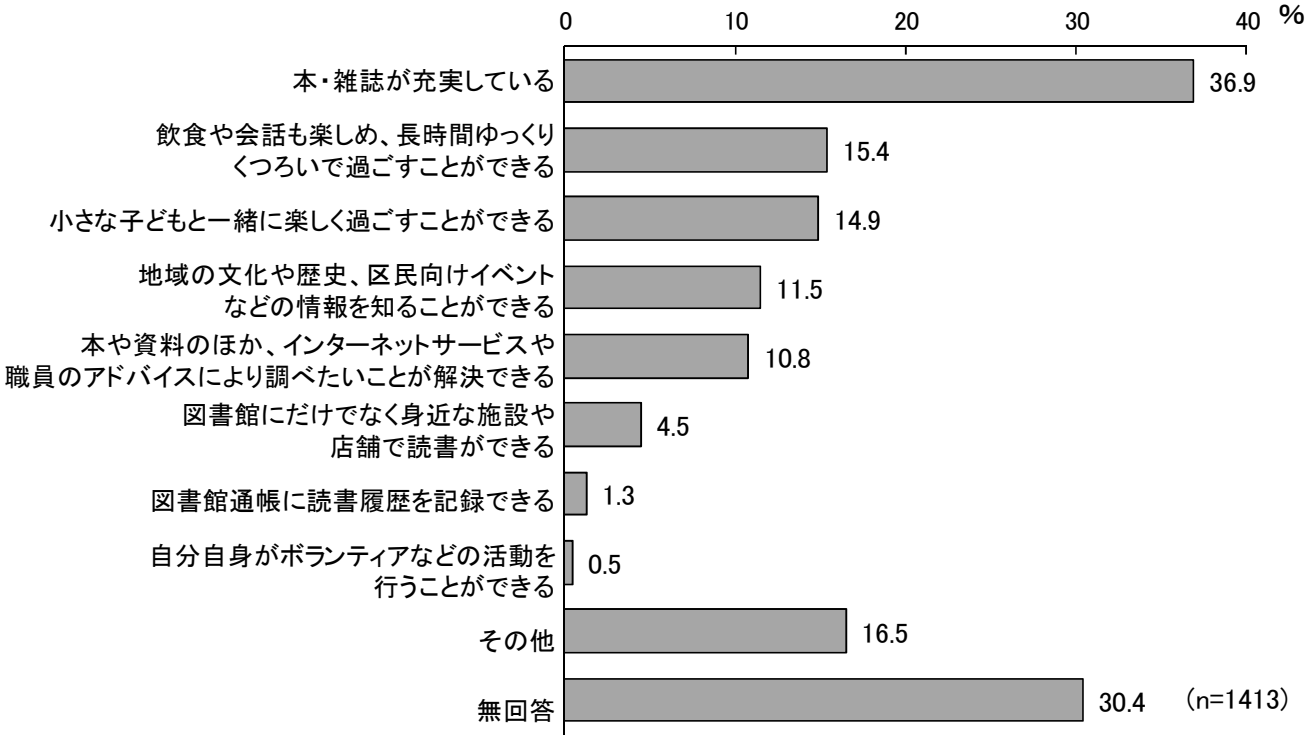


※平成 27 年度調査

週１回以上	2.6
月１回以上	11.6
２、３か月に１回	9.1
年１～２回程度	14.3
０回	57.5

設問：あなたが区立図書館に行って良かったことは何ですか。（回答は３つまで）

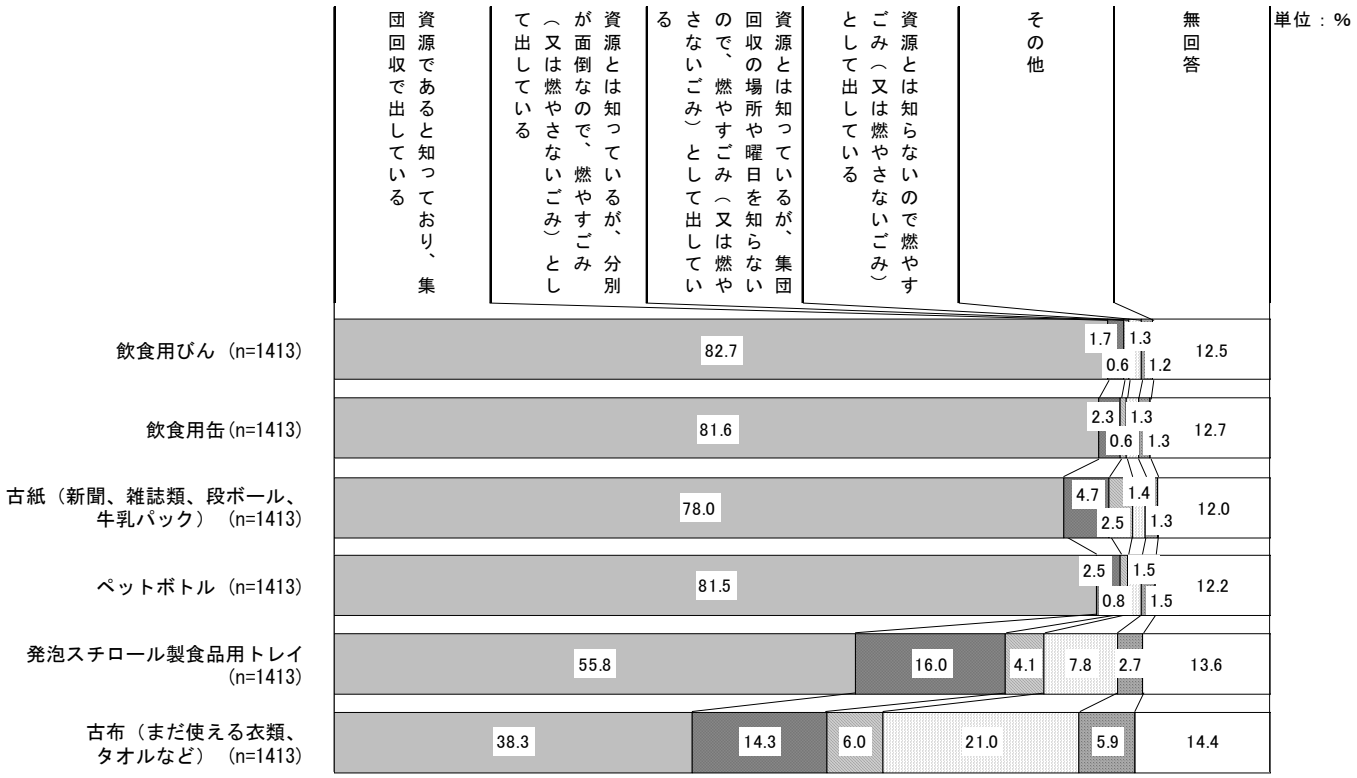
「本・雑誌が充実している」（36.9%）が３割半ばを超え、最も高くなっている。次いで、「飲食や会話も楽しめ、長時間ゆっくりくつろいで過ごすことができる」（15.4%）、「小さな子どもと一緒に楽しく過ごすことができる」（14.9%）と続いている。



５．資源とごみ　【各部依頼調査項目】

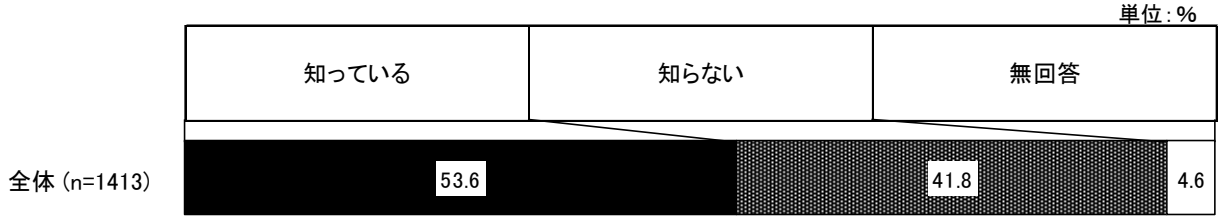
設問：区では資源を集団回収していますが、どのようなものが資源で出せるかご存じですか。

古布（まだ使える衣類、タオルなど）を除く全ての資源について５割以上が「資源であると知っており、集団回収で出している」と回答しており、特に飲食用びん（82.7%）で８割強と最も高くなっている。



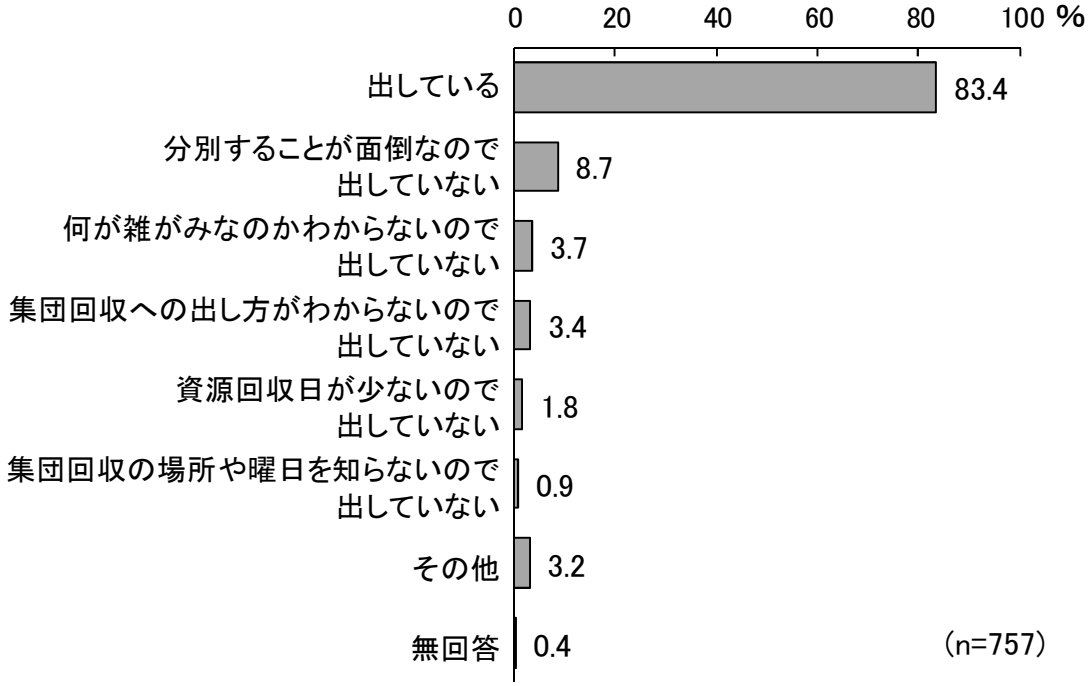
設問：リサイクルできる紙製品として、雑がみも資源として出せることをご存知ですか。
（回答は１つ）

「知っている」（53.6%）が５割半ば近く、「知らない」（41.8%）が４割強となっている。



設問：《雑がみ資源として出せることを知っているとお答えの方に》
雑がみを資源として集団回収に出していますか。（回答はいくつでも）

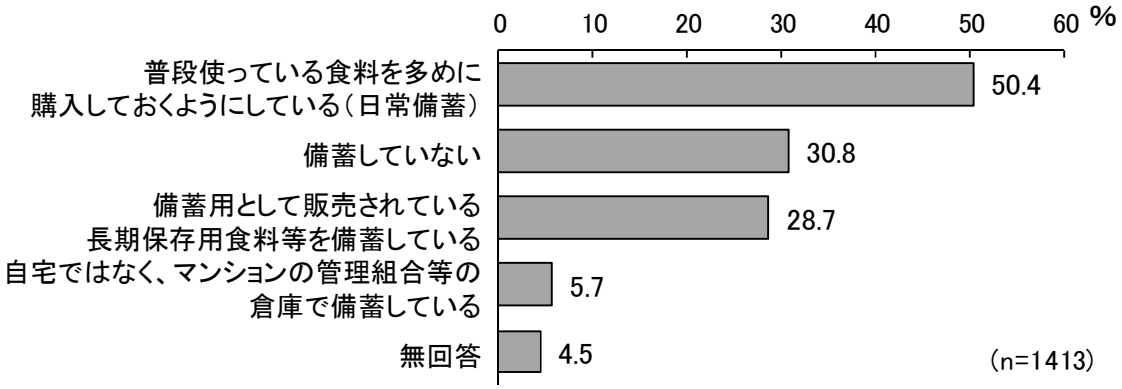
「出している」（83.4%）が８割半ば近くと最も高く、その他の項目を大きく上回っている。



６．防災対策　【各部依頼調査項目】

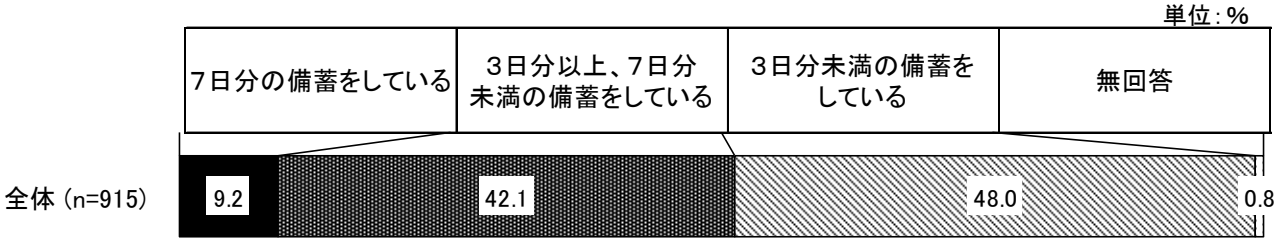
設問：災害時に備えた食料や飲料水の備蓄について、どのような取組をしていますか。（回答は「備蓄をしていない」以外はいくつでも）

「普段使っている食料を多めに購入しておくようにしている（日常備蓄）」（50.4%）は５割で最も多く、次いで「備蓄はしていない」（30.8%）が３割となっている。



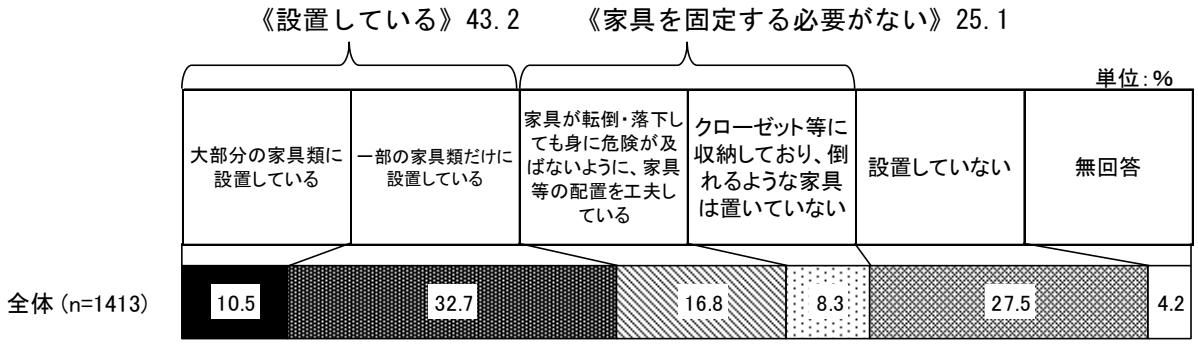
設問：《備蓄をしているとお答えの方に》
何日分の備蓄をしていますか。（回答は１つ）

「３日分未満の備蓄をしている」（48.0%）が５割近くで最も高く、次いで「３日分以上、７日分未満の備蓄をしている」（42.1%）、「７日分の備蓄をしている」（9.2%）と続いている。



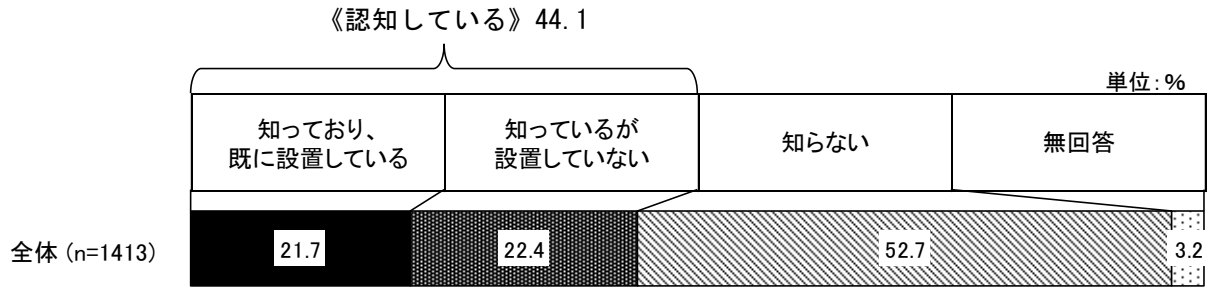
設問：あなたの家では、地震に備え、家具の転倒・落下防止器具の設置を行っていますか。
（回答は１つ）

「一部の家具類だけに設置している」（32.7%）が３割強で最も高く、「大部分の家具類に設置している」（10.5%）を合わせた《設置している》（43.2%）は４割半ば近くになっている。「家具が転倒・落下しても身に危険が及ばないように、家具等の配置を工夫している」（16.8%）、「クローゼット等に収納しており、倒れるような家具は置いていない」（8.3%）を合わせた《家具を固定する必要がない》（25.1%）は２割半ばとなっており、《設置している》と合わせると 68.3%で７割近くになっている。他方で「設置していない」（27.5%）は２割半ばを超えている。



設問：地震発生時の電気による火災を防ぐために、電気を自動的に止める「感震ブレーカー」という装置があることを知っていますか。（回答は１つ）

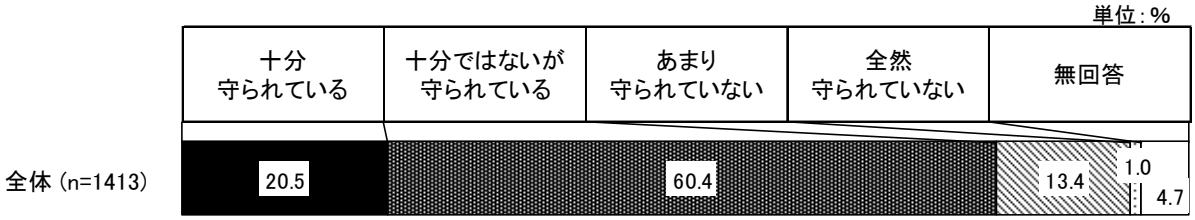
「知っており、既に設置している」（21.7%）と「知っているが設置していない」（22.4%）を合わせた《認知している》（44.1%）は４割半ば近くとなったが、「知らない」（52.7%）が５割強となっている。



７．人権（多様性を認め合う社会）　【各部依頼調査項目】

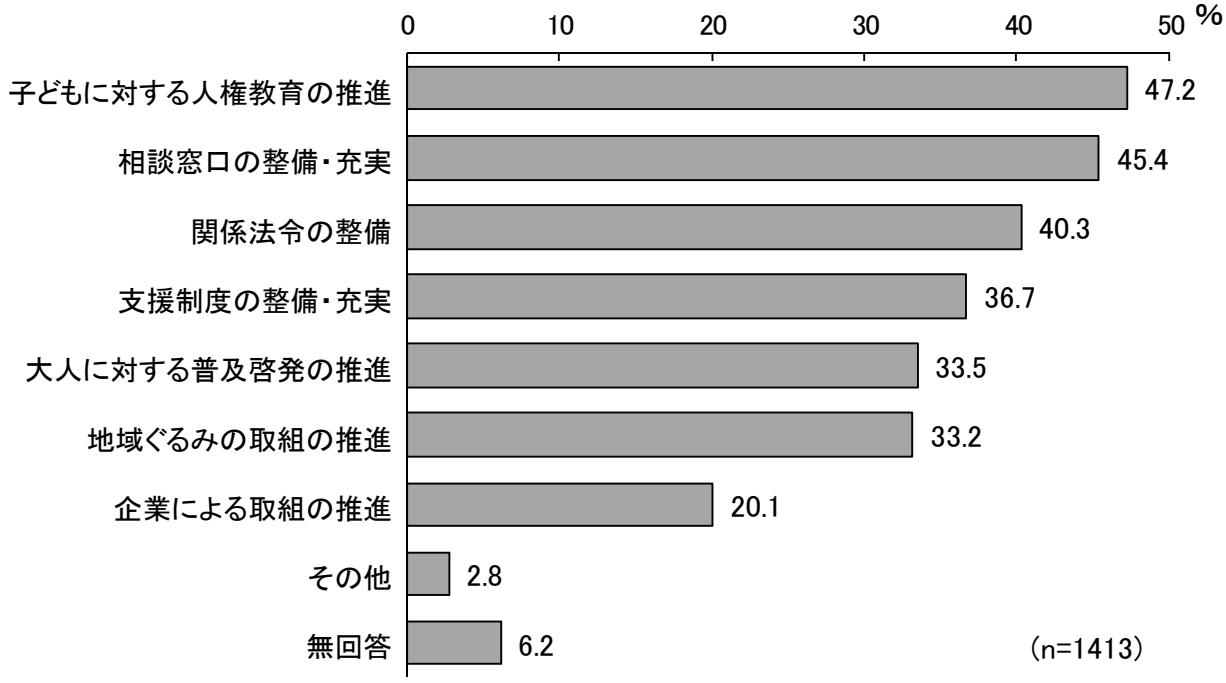
設問：現在の地域社会について人権が守られていると思いますか。（回答は１つ）

「十分ではないが守られている」（60.4％）が６割と最も高く、次いで「十分守られている」（20.5％）が２割、「あまり守られていない」（13.4％）、「全然守られていない」（1.0％）の順となっている。



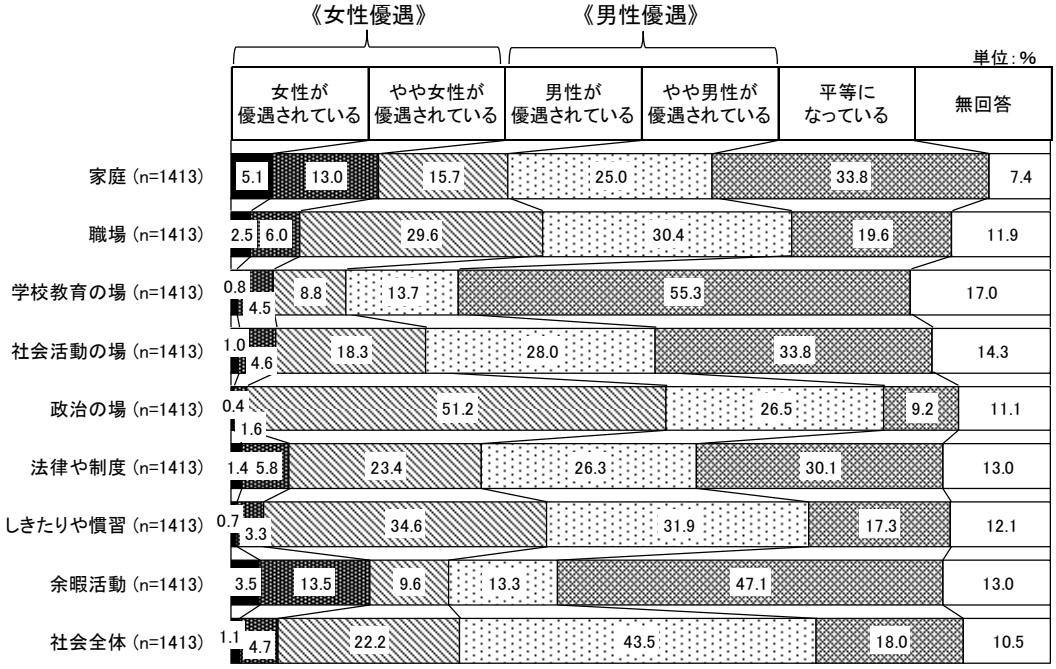
設問：すべての人の人権が尊重され、多様性を認め合う社会を実現するためには、どのような取組が必要だと考えますか。（回答はいくつでも）

「子どもに対する人権教育の推進」（47.2％）が４割半ばを超え最も高く、次いで「相談窓口の整備・充実」（45.4％）、「関係法令の整備」（40.3％）と続いている。



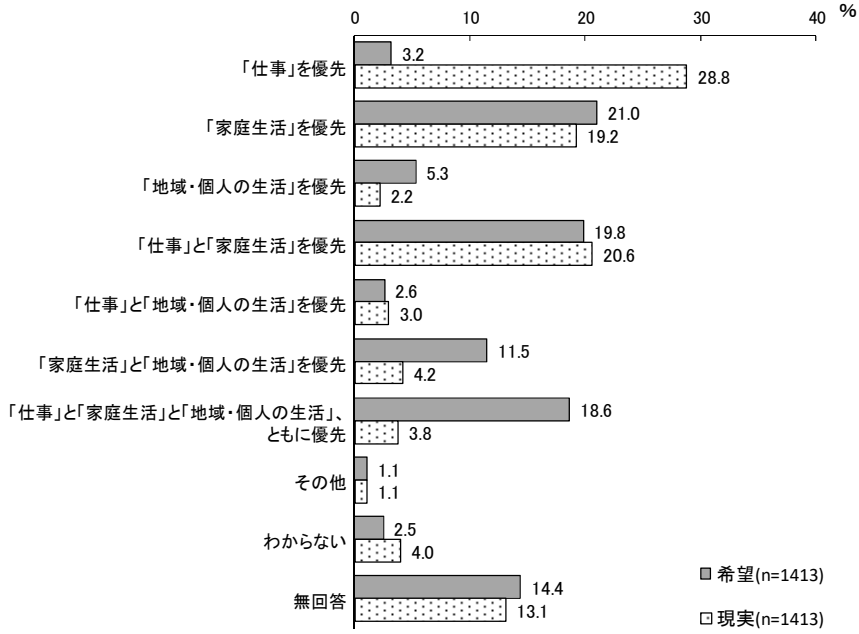
設問：次の分野で、男女の地位は平等だと思いますか。

《平等になっている》では「学校教育の場」（55.3%）で５割半ばと最も高くなっている。《男性優遇》では「政治の場」（77.7%）が７割半ばを超え最も高く、次いで「しきたりや慣習」（66.5%）、「社会全体」（65.7%）、「職場」（60.0%）と続いている。



設問：生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活（地域活動学習・趣味・付き合い等）」の優先度について、希望と現実であなたに近いものをそれぞれお選びください。

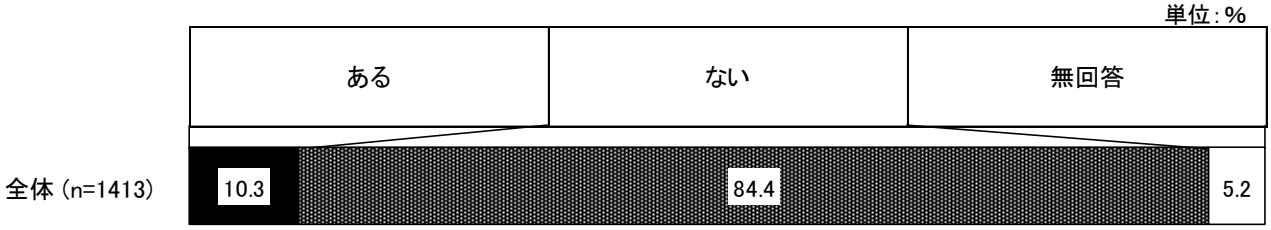
希望では「「家庭生活」を優先」（21.0%）が２割強で最も高く、次いで、「「仕事」と「家庭生活」を優先」（19.8%）と続いている。一方、現実では「「仕事」を優先」（28.8%）が３割近くで最も高く、次いで、「「仕事」と「家庭生活」を優先」（20.6%）と続いている。



８．児童虐待　【各部依頼調査項目】

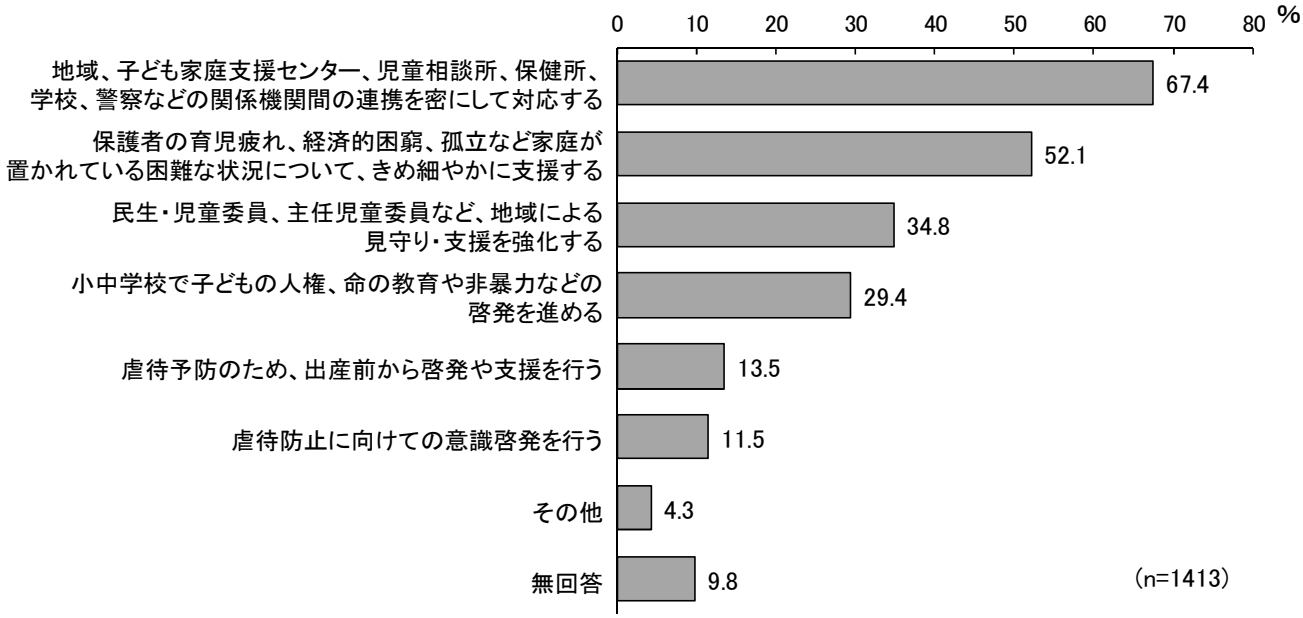
設問：あなたは児童虐待かもしれない場面を見聞きしたことはありますか。（回答は１つ）

「ない」（84.4%）が８割半ば近く、「ある」（10.3%）が１割となっている。



設問：児童虐待を予防、早期発見するために、必要だと思うことは何ですか。（回答は３つまで）

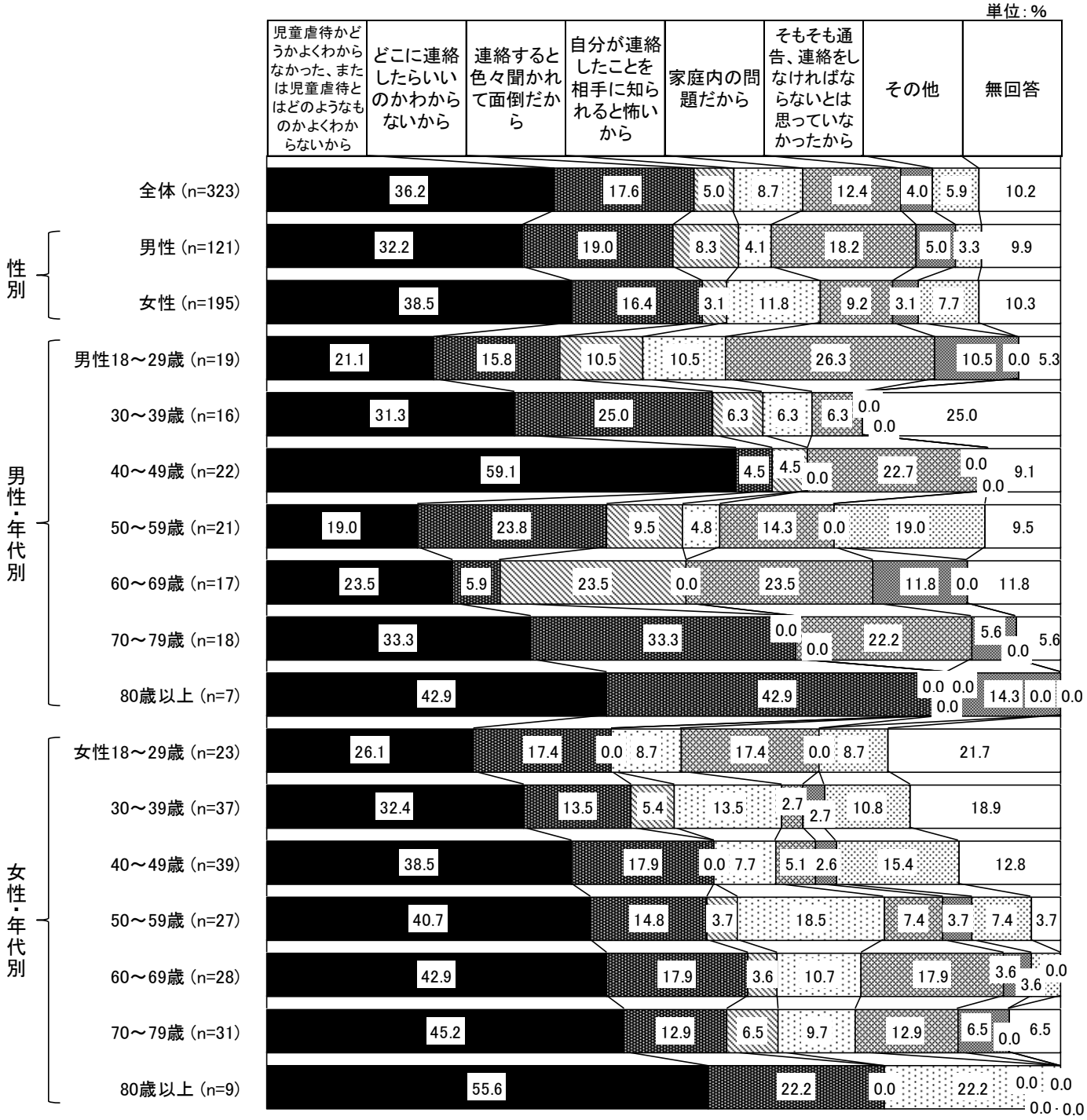
「地域、子ども家庭支援センター、児童相談所、保健所、学校、警察などの関係機関間の連携を密にして対応する」（67.4%）が６割半ばを超えて最も高く、次いで「保護者の育児疲れ、経済的困窮、孤立など家庭が置かれている困難な状況について、きめ細やかに支援する」（52.1%）などが続く結果となった。



設問：《児童虐待かもしれない場面を見聞きしたときに通告、連絡はしなかった及びもし、そのような場面に出会ったときに通告、連絡はしないとお答えの方に》
それはなぜですか。（回答は１つ）。

性別でみると、「家庭内の問題だから」では男性（18.2%）が女性（9.2%）を 9.0 ポイント上回った。性・年代別にみると、「児童虐待かどうかよくわからなかった、または児童虐待とはどのようなものかよくわからないから」では男性 40～49 歳（59.1%）が６割弱と最も高く、次いで女性 80 歳以上（55.6%）となっている。

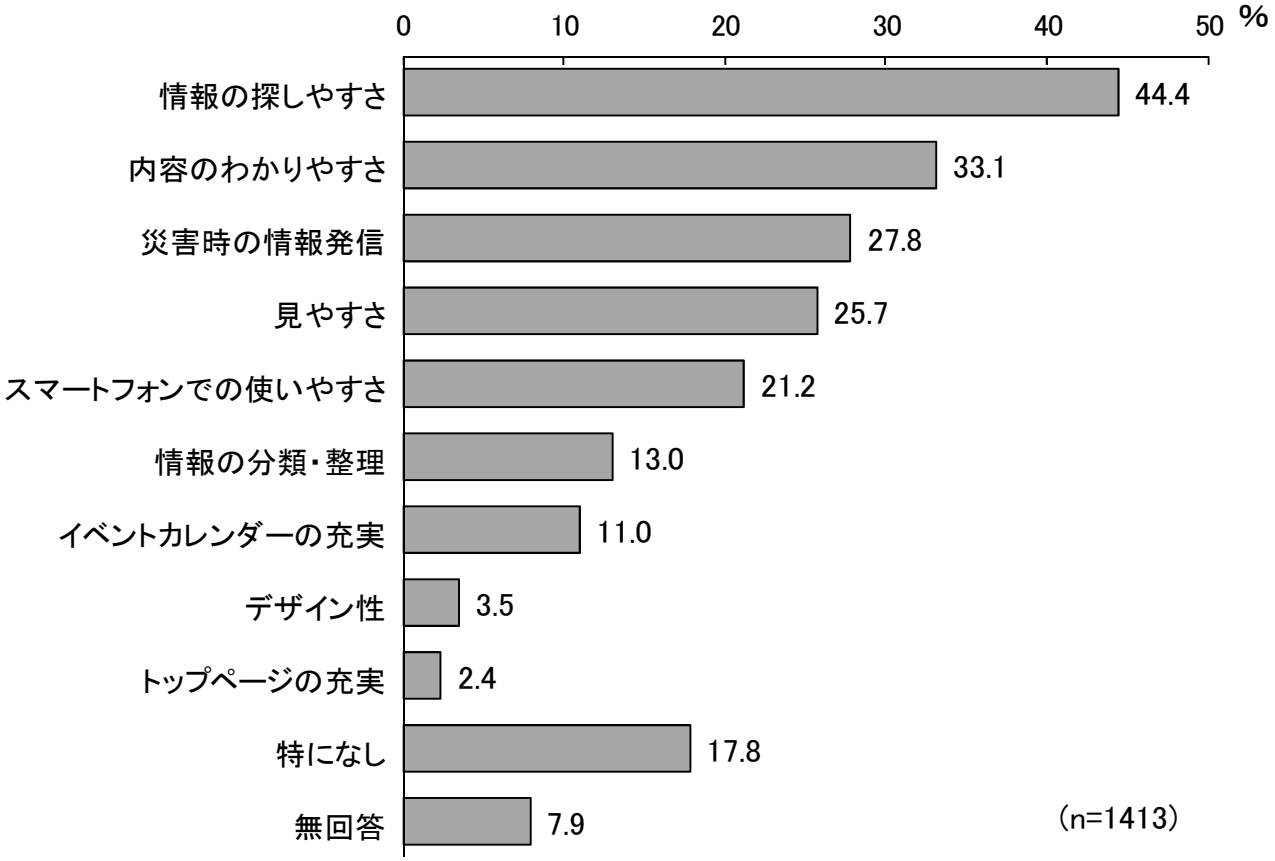
通告・連絡しない理由　性別／性・年代別



９．広報活動　【各部依頼調査項目】

設問：荒川区ホームページについて、今後、区に特に力を入れてほしいものをお選びください。
（回答はいくつでも）

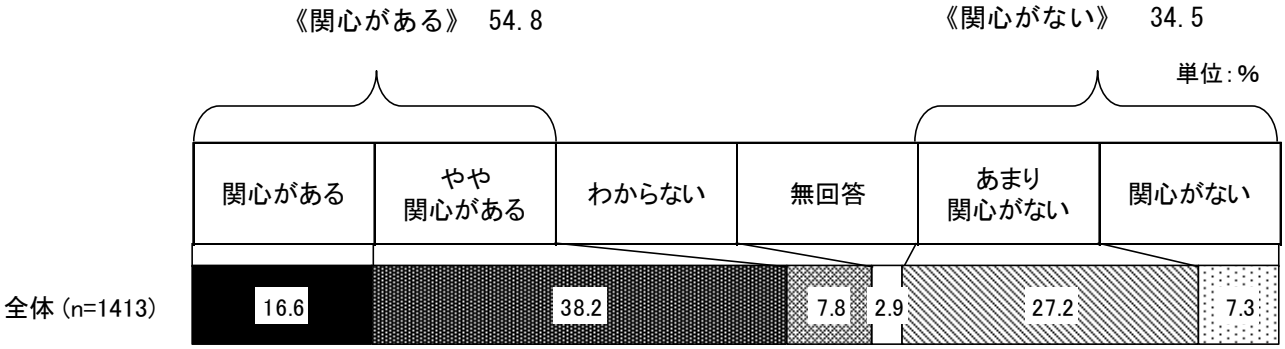
「情報の探しやすさ」（44.4％）が４割半ば近くと最も高く、次いで「内容のわかりやすさ」（33.1％）、「災害時の情報発信」（27.8％）、「見やすさ」（25.7％）、「スマートフォンでの使いやすさ」（21.2％）と続いている。



10. 区政への関心と要望　【継続調査項目】

設問：あなたは、区政にどの程度関心がありますか。（回答は１つ）

「関心がある」（16.6%）と「やや関心がある」（38.2%）を合わせた《関心がある》（54.8%）は５割半ば近く、一方、「あまり関心がない」（27.2%）と「関心がない」（7.3%）を合わせた《関心がない》（34.5%）は３割半ば近くで、《関心がある》との差は 20.3 ポイントとなっている。



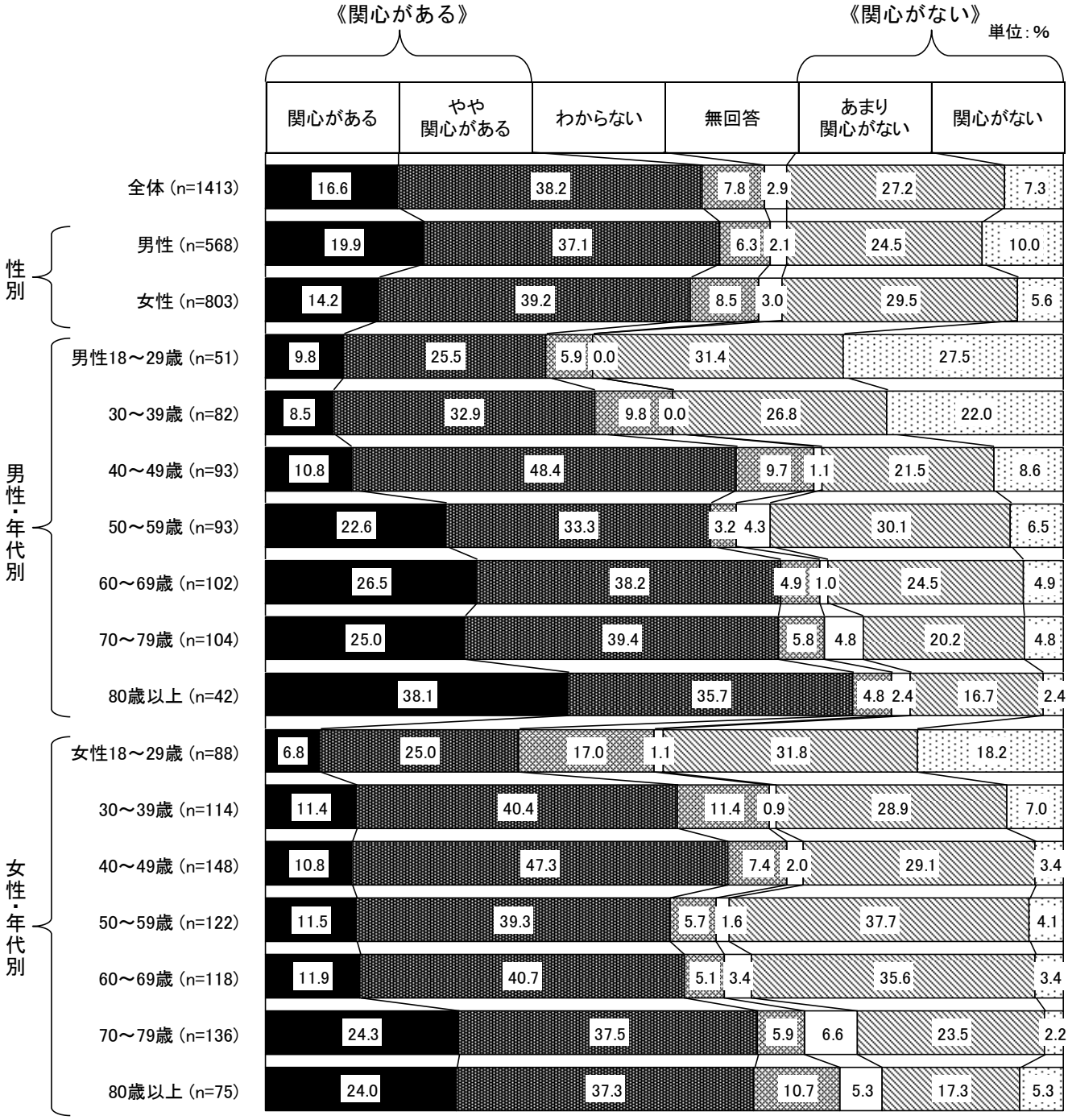
※昨年度

関心がある	14.1	49.6
やや関心がある	35.5	
あまり関心がない	32.0	39.8
関心がない	7.8	

性別でみると、《関心がある》は、男性（57.0%）が女性（53.4%）より 3.6 ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、《関心がある》では男性 80 歳以上（73.8%）が７割半ば近くで最も高く、次いで男性 60～69 歳（64.7%）が６割半ば近くと高くなっている。対して、男女ともに 18～29 歳では、《関心がない》の割合が高く、特に男性 18～29 歳（58.9%）では６割近くとなっている。

区政への関心　性別／性・年代別



設問：区が行っている事業のうち、「今後、区に力を入れてほしいと思うもの」を５つ選んでください。

【過年度比較】

過去の結果と比較すると、第１・２位は常に「地震などの防災対策」と「高齢者福祉の充実」が挙げられている。また、「幼児・児童の子育て支援の充実」、「地域防犯の取組」は順位に多少変化があるものの、常に上位に挙げられている。

単位：％

年度	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
令和元年	高齢者福祉の充実	35.8	地震などの防災対策	34.7	幼児・児童の子育て支援の充実	23.9	子どもの安全対策	19.2	地域防犯の取組	19.0	学校教育の充実	18.1	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.3
平成30年	地震などの防災対策	37.6	高齢者福祉の充実	25.8	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	24.3	地域防犯の取組	23.9	魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	23.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.6	道路・交通網の整備	19.5
平成29年	地震などの防災対策	31.0	高齢者福祉の充実	28.4	幼児・児童の子育て支援の充実	24.1	道路・交通網の整備	20.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	20.5	地域防犯の取組	20.1	公園の整備充実・緑化の推進／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進	19.3
平成28年	地震などの防災対策	37.0	高齢者福祉の充実	31.7	幼児・児童の子育て支援の充実	24.9	地域防犯の取組	22.2	子どもの安全対策	20.4	公園の整備充実・緑化の推進	19.6	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.0
平成27年	地震などの防災対策	31.8	高齢者福祉の充実	31.4	幼児・児童の子育て支援の充実	23.5	子どもの安全対策	21.9	地域防犯の取組	21.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.4	学校教育の充実	18.4
平成26年	地震などの防災対策	40.9	高齢者福祉の充実	35.7	幼児・児童の子育て支援の充実	25.3	地域防犯の取組	21.8	学校教育の充実／子どもの安全対策			18.2	公園の整備充実・緑化推進	18.1
平成25年	地震などの防災対策	38.6	高齢者福祉の充実	31.6	地域防犯への取組	24.3	幼児・児童の子育て支援の充実	21.8	子どもの安全対策／公園の整備充実・緑化推進			19.0	学校教育の充実	18.9
平成24年	地震などの防災対策	37.3	高齢者福祉対策	29.3	地域防犯への取組	21.0	幼児・児童の子育て支援対策	19.3	子どもの安全対策	18.3	学校教育の充実	18.0	公園の整備充実・緑化対策	15.3
平成23年	地震などの防災対策	41.4	高齢者福祉対策	32.1	幼児・児童の子育て支援対策	21.6	地域防犯への取組	21.2	子どもの安全対策	19.4	健康づくりなどの保健衛生対策	16.2	学校教育の充実／就労支援の充実	16.1
平成22年	高齢者福祉対策	32.8	地震などの防災対策	25.2	幼児・児童の子育て支援対策	19.0	地域防犯への取組	18.1	子どもの安全対策	17.0	健康づくりなどの保健衛生対策	16.7	学校教育の充実	16.6

ライフステージ別にみると、「高齢者福祉の充実」（全体１位）は家族形成期では上位に挙げられていない。また、「地震などの防災対策」（全体２位）は全ライフステージの上位に挙げられている。

今後、区に力を入れてほしい事業（上位７位）　ライフステージ別

単位：％

区分	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位		第6位		第7位	
全体	高齢者福祉の充実	35.8	地震などの防災対策	34.7	幼児・児童の子育て支援の充実	23.9	子どもの安全対策	19.2	地域防犯の取組	19.0	学校教育の充実	18.1	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.3
家族形成期	幼児・児童の子育て支援の充実	67.7	学校教育の充実	45.7	子どもの安全対策	45.1	地震などの防災対策	36.6	公園の整備充実・緑化の推進	21.3	地域防犯の取組	20.7	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	19.5
家族成長前期	学校教育の充実	46.9	子どもの安全対策	44.5	幼児・児童の子育て支援の充実	31.3	地震などの防災対策	26.6	公園の整備充実・緑化の推進／道路・交通網の整備			19.5	高齢者福祉の充実	18.0
家族成長後期	高齢者福祉の充実／地震などの防災対策			31.4	子どもの安全対策	25.7	幼児・児童の子育て支援の充実	24.8	道路・交通網の整備	23.8	学校教育の充実／地域防犯の取組／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進			22.9
家族成熟期	高齢者福祉の充実	41.5	地震などの防災対策	37.2	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	21.3	就労支援の充実／地域防犯の取組			20.2	バリアフリー化の推進／魅力ある景観づくり、木造住宅密集地域の改善など街づくりの推進			19.1
高齢期	高齢者福祉の充実	58.1	地震などの防災対策	37.4	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	22.5	低所得者に対する福祉の充実	22.1	バリアフリー化の推進	21.6	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	17.1	幼児・児童の子育て支援の充実	14.4
高齢期（一人暮らし）	高齢者福祉の充実	52.9	地震などの防災対策	39.2	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	25.5	地域防犯の取組	21.6	低所得者に対する福祉の充実	20.6	バリアフリー化の推進	15.7	道路・交通網の整備	12.7
一人暮らし	地震などの防災対策	29.9	騒音・ポイ捨て対策などの良好な生活環境のための施策の充実	21.3	幼児・児童の子育て支援の充実／地域防犯の取組			20.5	高齢者福祉の充実／道路・交通網の整備			18.9	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	18.1
その他	高齢者福祉の充実	39.5	地震などの防災対策	35.5	地域防犯の取組	19.5	低所得者に対する福祉の充実	17.4	健康づくりなどの保健衛生施策の充実	17.2	バリアフリー化の推進	17.0	幼児・児童の子育て支援の充実	16.8